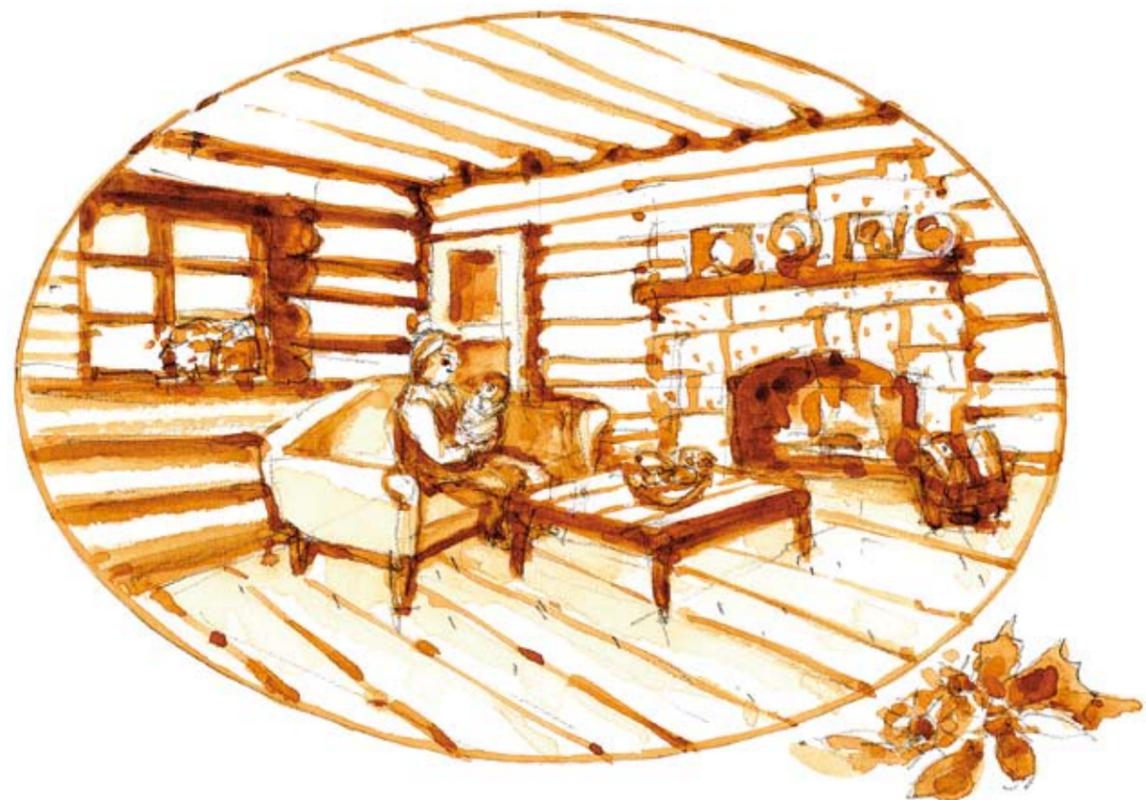


日本を愛し続けたアメリカ婦人の物語



E・B ミリカン 物語



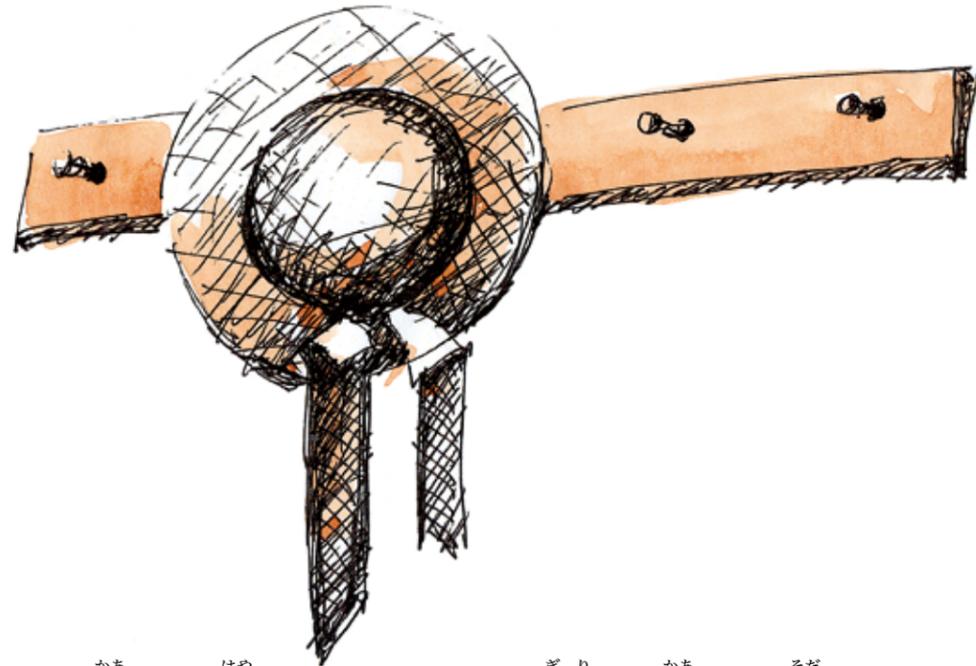
1887年—日本では明治時代のこと—、アメリカのインディアナ州で、ブライアン家の長女として、エバが生まれました。後のエバ・B・ミリカン先生です。

エバのお父さんは、ヨーロッパの森林地帯から来たドイツ系移民でした。

お父さんは、農地を作るときに切り倒した木で丸太小屋を建てました。

そして家族で住み、寒い冬に耐えながら広い土地で農業をしていました。





エバは、お母さんを早くになくしたので、義理のお母さんに育てられて、11歳になりました。お父さんの農場では、刈り入れの季節になると、たくさんの人が来て働いていました。エバはその人たちの食事のしたくを手伝ったり、家の仕事を
お母さんと一緒にしたり、一生懸命に働いていました。

「ふう、お手伝いが終わったわ。」ちょっと疲れたのでしょうか、エバは小さなためいきをつきました。「なんだかよくわからないけど・・・わたし、さみしい・・・。」

エバのまわりには両親や兄弟たちもいたし、農場で働く人もおおぜいいたのに、
心の中が寂しかったのです。「どうしてなのかしら・・・。」エバは自分でも分かりませんでした。





12

さい

ある日のこと、エバの住んでいた町の学校で、伝道会が開かれました。エバもその伝道会に行きました。

伝道会では、教会の牧師さんが聖書を読んで、イエスさまのことをお話してくれました。エバは、イエスさまのお話を聞いて、とてもうれしくなりました。

「イエスさまって、神さまの子なのに、わたしの罪のために十字架にかかって死んで下さったのね。そしてわたしを救って下さったなんて・・・、そんなにわたしを愛してくださるなんて・・・ああ、うれしい、ありがとう！イエスさま！」

エバは、そのときイエスさまを救い主として信じました。その時からエバは、少しも寂しくなくなったのです。





エバは、お手伝いが終わると、どんなに疲れていても、農場から白い馬に乗って、教会へかけていきました。そして、熱心にイエスさまのお話を聞きました。

エバは思いました。「イエスさまって、ほんとにすばらしいわ！ イエスさまのこと、わたしも大勢の人に教えてあげたいわ。」エバは聖書をよく読んで、神さまの御言葉をよく聞きながら、成長しました。

まもなくエバは、ワシントン州に移り、シアトル・パシフィック・セミナリーという神さまのことを教えてくれる学校に進学しました。そして神さまは、エバがすばらしい道に進んで行くように、導いてくださいました。





1911

第一回日本宣教

神戸

それは、ロイ・ミリカンという青年との出会いです。ロイもまた、イエスさまを世界中の人に伝えたいと願っていました。

エバはロイと結婚しました。ふたりは一緒にお祈りをしました。「神さま、わたしたちは、神さまのお手伝いがしたいのです。まだイエスさまを知らない、たくさんの方が住んでいる国に行って、イエスさまをお伝えします。神さま、そんな国に連れて行ってください。」

神さまは、ふたりの祈りに応えてくださいました。

ロイとエバは、イエスさまを伝える宣教師として、日本に行くことになったのです。ふたりは、船で兵庫県の神戸に渡って、そこに住みました。





西住 正義先生

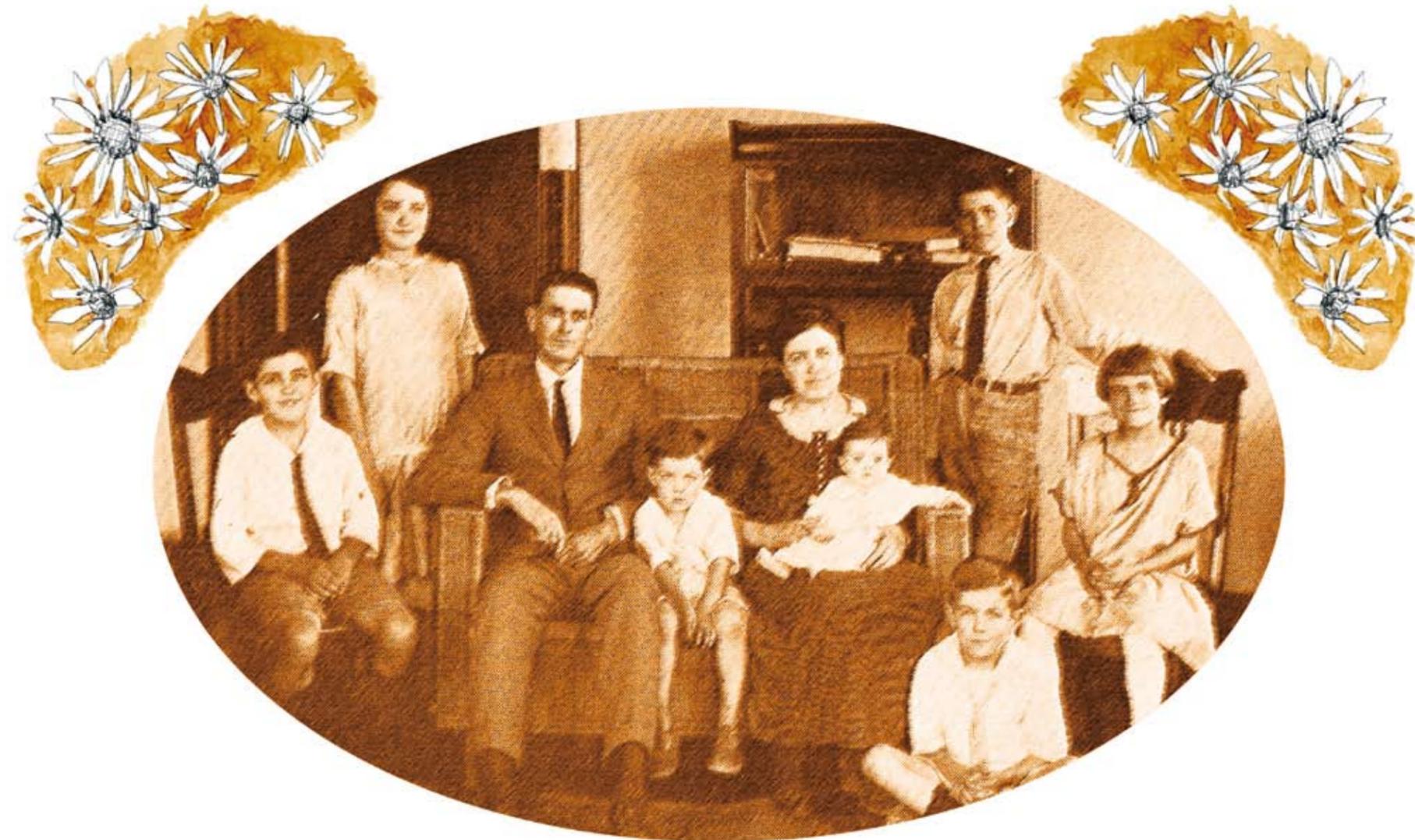
ロイ・ミリカン先生とエバ先生のふたりは、イエスさまのことを知らない大勢のひとに、イエスさまがどんなにわたしたちを愛してくださっているか伝えました。

そして、イエスさまを信じる人が生まれてきました。そのなかには、ブラジルにまで、イエスさまのことを知らせに渡った青年もいました。西住 正義先生です。

ロイとエバ夫婦は、日本で8人のかわいい子どもたちにめぐまれました。エバ・ミリカン先生は子どもたちを育てながら、ロイ先生を助けて、聖書のみことばを伝えていました。

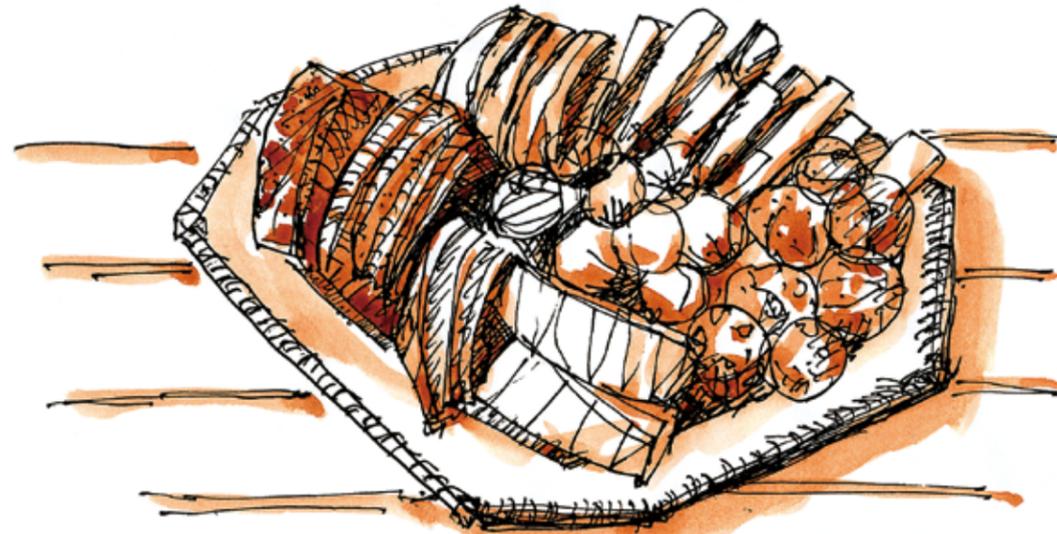
また先生は、お料理が得意で、すき焼きなどの日本料理もつくれたのです。日本語もどんどん上手に話せるようになっていきました。

ふたりは関西地方で17年間、たくさんの人にイエスさまのことを伝えて、1928年に家族でアメリカに帰りました。



私と私の家とは、主に仕える。ヨシュア記24:15

As for me and my house, we will serve the Lord. Joshua 24:15



やがて、ふたりの愛する日本と、生まれた国であるアメリカとが戦争をするという悲しいことが起きてしまいました。第2次世界大戦です。

ロイ先生とエバ先生は、日本に戻って仕事をするができなくなりました。ふたりは、シアトルに住み、イエスさまを第一にした家庭を築きました。子どもたちは成長し、それぞれ神さまに喜ばれる仕事につき、結婚して自分の家庭をも持つようになりました。

1949年、夫のロイ・ミリカン先生は亡くなって、神さまのもとへ帰りました。エバ先生は61歳になっていました。いつも仲良くすごして、イエスさまを伝える仕事も一緒にしてきたロイ先生が亡くなって、どんなに寂しかったことでしょう。

でも、エバ・ミリカン先生はくじけませんでした。

